

足の付け根が膨らんだら

鼠径（そけい）部ヘルニアかも！！

立った時あるいは重いものを持った時などに、太ももや足のつけね（鼠径部、そけいぶ）に何か出てくる感じ、不快感や痛みを感じたことはありませんか？ひょっとするとそれは「鼠径（そけい）ヘルニア」かもしれません。以前は「脱腸」と呼ばれていて子供の病気と思われがちだったのですが、むしろ成人、特に40代以上の男性に多く起こる傾向にあります。

足のつけね付近のお腹の壁にはごく一部分に構造的に弱い場所があり、加齢により筋肉や身体の組織が衰えてくるとその弱い部分の隙間を通して脂肪や腸などお腹の中の組織の一部が、お腹の中の圧力により皮膚の下に飛び出してきます。そのため足のつけねに柔らかい膨隆（腫れ）ができますが、普通は寝たり指で押さえたりすると腫れは引っ込みます。



初期症状が軽度であるため通常は放置されることが多いのですが、経過に伴って次第に腫れが大きくなったり痛みの程度が増したりします。腫れが急に硬くなったり押さえても引っ込まなくなる場合もあり、お腹がひどく痛んだり吐いたりするようになります。これを鼠径ヘルニアのカントン（嵌頓）といい、緊急に治療をしなければ命にかかわる危険性も出てきます。

鼠径ヘルニアを治療するにはお薬では全く効果がありません。飛び出した組織をお腹の中に戻し、弱くなったお腹の壁を補強してもう飛び出さないようにする手術以外に治療方法がありません。最近では痛みも少なく短期入院で済む新しい手術方法が普及してきており、生活の質を考慮すれば、積極的に治療した方が良い病気です。当院でもこの手術を行っていますので気になる方は医師にお気軽にご相談ください。

ヘルニアとは・・・

ある臓器が体の弱い部分やすき間から他の部位へ出てくる状態をヘルニアといいます。これは体のいろいろな場所で起こりますが、足の付け根付近で起こるものに鼠径ヘルニア、大腸ヘルニアがあります。鼠径ヘルニアは小腸が出てくるが多いため、俗に「脱腸」とよばれています。子供と大人では原因が違います。大人の場合、年をとって身体の組織が固くなるために起こることが多く、中年以降の男性に多く見られます。この成人ヘルニアは手術で治療する必要があります。

